



オレンジ通信

<http://Bkan-hokuriku.info/>

全国B型肝炎訴訟北陸原告団・弁護団

〒920-0931 石川県金沢市兼六元町 9-40

金沢合同法律事務所

発行日：2020年1月20日 第17号

連絡先 富山 076-423-2466 富山中央法律事務所／金沢 076-221-4111 金沢合同法律事務所／福井 0776-30-1371 泉法律事務所



「全国若手原告の集い」開催 2019年12月21日 東京



全国から30代～50代の30名の原告が集結しました。

田中代表挨拶、佐藤団長挨拶、B型肝炎訴訟の歴史(実話DVD)、東京原告の活動紹介後、男女別・地域別で交流会が行われました。

初めての開催で皆さん緊張した面持ちでしたが、交流会が終わると笑顔になり「同世代で同じ境遇だから話ることが出来る。」と大変に喜んでおられました。「職場での差別」、「入退院の繰り返しによる生活費の負担」「仕事が出来ない事で家族に迷惑をかけていること」、「就労への不安」。

働ける・働きたい世代の問題も多く聞かれました。

また、母子感染された30代男性は「母がこの活動で元気になった姿を見た。同じ年代の患者と交流した事がないので初めて参加してみた。とても居心地がよかった。」と述べていました。誰にも言えないことを伝えられるこの仲間と『繋がる』ことに意味があると思いました。翌日には浅草観光等を満喫されていました。

次回も開催を予定しているので若手の皆さんはお気軽に参加してください！ 【代表 川上ゆきえ】

【寄稿】 歯医者さんに最近かかりましたか？



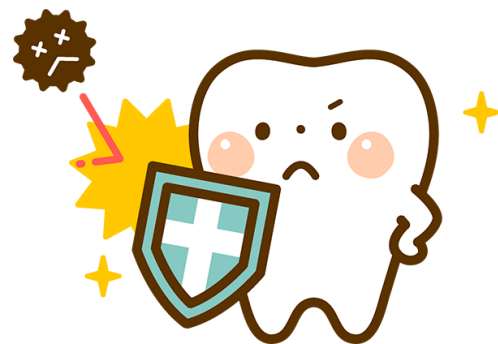
痛くなくても歯科受診のススメ

浜崎啓吾(浜崎歯科クリニック副院長/東京歯科保険医協会理事)

みなさんは、最近歯医者さんにいつかかりましたか？歯医者に行くのは勇気が必要な方も多いのではないのでしょうか。

わたしたちの歯科医院にもほとんどの患者さんが、「痛い」「腫れた」「取れた」など、お口のトラブルを抱えて来院されます。しかし逆に言うとお口のトラブルがなくても「歯医者に行こう！」という方は、なかなか少ないように思います。

お口の中には約 4000 億個もの細菌が存在します。これらの中には自覚症状なくじわじわとお口の環境を破壊していき、虫歯や歯周病などの歯科疾患を引き起こす細菌が多くいます。歯科治療の現場では痛くなってからでは「手遅れ」の場合がほとんどです。さらに最近では、お口の細菌が全身疾患を誘発したり、助長することもわかってきました。お口だけではなく全身の健康を守るためにも、定期的な歯科受診がとても大切なのです。



肝臓の状態と歯科治療時の注意点

今現在、皆さんの肝臓の状態や治療状況は様々だと思います。

ただ、もし肝臓の状態が悪いまま歯科治療を受けてしまうと、時に思いもよらない偶発症が起こってしまうことがあります。

ぜひ歯医者さんにかかる前にご自身の肝臓の状態を確認してください。ただ歯科医院でご自身の肝臓の状態を申告するのはハードルが高いことだと思います。その際は肝臓の主治医の先生に一度相談してみてください。

肝臓の状態が悪いまま歯科治療を受けてしまうと、次のようなことが心配されます。



血が止まりにくくなります

肝臓の機能が低下していると、血液を固める凝固因子や血小板が少なくなり、抜歯のときなどに血が止まりにくくなってしまいます。歯科治療では抜歯だけでなく、歯肉付近の虫歯を削ったり、歯石を取ったりなど出血する場面が少なくありません。



抜歯後の傷が治りにくく、感染しやすくなります

アルブミンというタンパク質が少なくなる傾向がありますので、口腔内の傷が治りにくくなり、また、時には血液の白血球が減って細菌感染を起こしやすくなります。



薬が効き過ぎることがあります

肝臓で薬を代謝する力が弱くなるので、薬が効き過ぎたり、薬の副作用が強く出ることがあります。また稀に抜歯後に処方する痛み止めや抗生物質で、肝障害が起きることもあります。

口は健康の源です。食べる、飲む、味わう、おしゃべりをする、という口の機能を守るとは生きる尊厳を守ることにも繋がっています。ぜひ定期的に歯医者さんを受診して四季折々のものを、よく噛んで美味しく味わっていただきたい。それがわたしたち歯科医師・歯科衛生士の願いです。

-----【浜崎啓吾先生・略歴】-----

浜崎歯科クリニック(東京都練馬区)副院長

歯科医師臨床研修指導医、東京歯科保険医協会理事を歴任

現在東京歯科保険医協会 院内感染防止対策委員長

歯科における感染防止対策等にも造詣が深く、北陸でもご講演をいただきました



「全国原告団交流会」開催

2019 年 11 月 16 日、17 日 東京



北陸原告団弁護団からは総勢 10 名程度の参加でした。交流会では、これまでの原告団の活動を振り返りつつ、これからの活動をどう進めていくかという点について、それぞれ各地域の実情や課題を持ち寄り、他地域の活動の参考となる部分をお互いに情報交換しました。【弁護士 石井翔大】

【参加原告の声①】 石川県・男性 ～歯科問題について～

平成 30 年度に新しい施設基準ができ、約 95%の歯科医が申請している今でも、B型肝炎患者が歯科で診療時間を後回しにされ、診療拒否される事例が後を絶ちません。なぜ、歯科で偏見差別が起こるのでしょうか？私たちは、今後も安全・安心な歯科医療の提供を求めます。



【参加原告の声②】 富山県・男性 ～恒久対策・教育啓発について～

病院とコンタクトを取り、医療従事者との直接的な接触を試みることは重要だと思いました。医師から直接患者にリーフレット等を渡してもらうのが良いと思いました。B型肝炎ウィルスを排除する「創薬の実現」を願っています。

【参加原告の声③】 富山県・女性(遺族原告) ～原告の辛い経験をぜひ全国の弁護士に～

私は、とりわけ、太平洋戦争後の予防接種制度をとりまく時代状況をふまえた、国の保健行政管理のずさんな実態を浮き彫りにする正鵠をえた報告に大変満足いたしました。また、原告の方により克明に語られたつらい経験は、全国の実務担当弁護士の方々全員に理解してほしいと切におもいました。

「全国遺族原告交流会」開催

2019 年 10 月 26 日 大阪

第 1 回全国遺族原告交流会が開催されました。今回初めての試みでした。全国各地から総計 56 名の参加者が集まりました。

田中会長と担当弁護士の先生、そして吉永遺族原告代表のおことばの後、地域の代表者の方々から自己紹介と活動概要報告がありました。

それから、参加者は、テーブルグループという形式でそれぞれ席に分かれて、自身の経験と現状報告、今後の課題についての議論を行いました。

初めての実施ということではありましたが、交流会はおおいに充実したものとなりました。「B型肝炎完治可能となる」という一報が入ることを期待しながら、こころの医療に従事される方々への私達遺族原告の実情報告とケア制度の整備はもちろん、いまだに公表できずにいる全国の多くの潜在被害者の方々への広報活動も喫緊の課題として認識することができました。

【富山県・30 代男性(遺族原告)】



「肝炎医療コーディネーター」って知っていますか？



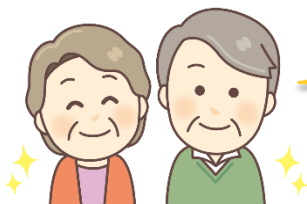
医療費高いし、仕事の事やこれからの生活が不安。医師には相談しにくいし。

そんなときは、まずは肝炎医療コーディネーターに相談してみたらどうですか？



肝炎医療コーディネーター？何それ？

肝炎医療コーディネーターは、国の指針により、各都道府県で推し進められている制度で、肝炎の検査や治療についての相談助言や、医療費助成制度の案内などを行っています。また、患者さんが適切な肝炎医療や支援を受けられるように、医療機関や行政機関などの関係者間の橋渡しを行い、それぞれの立場（看護師、医療ソーシャルワーカー、自治体職員など）の強みを生かして患者さんをサポートしています。



そうなんだ！で、コーディネーターさんはどこにいるの？

肝炎医療コーディネーターは、肝疾患専門医療機関などにいます！通院されている医療機関、最寄りの保健所、県の担当課等にお尋ねください！



そうなんだ。身近にいるんだね。相談してみます！

国や県も、肝炎医療コーディネーターの養成に力を入れていますので、是非何でも相談してみてください！



「除斥期間」問題 福岡地裁・原告本人尋問報告

2019年9月26日、「除斥期間」の適用を争っている福岡地裁第二陣訴訟で、慢性肝炎原告7名の尋問が行われました。第一陣は、17年12月に福岡地裁で勝訴したものの、その後19年4月に高裁で逆転敗訴しています。ある方は、肝炎発症後に好きな仕事を辞め、収入が激減。苦手な営業の仕事を始めて軌道に乗ったが再発し、その後退職。家計は苦しく、かつて抱いていた家族旅行等の夢も今は考えることすらなくなると話していました。別の方は、子どもに頼りもできず十分遊んでやれなかった。ずっと治療しているが数値は下がらず、母は自分の感染についてずっと自身を責めていた、とのことでした。裁判官も真剣に聞いており、判決が期待されます。判決は今年度中の予定です。【弁護士 春山然浩】



「福井原告交流会」開催

2019 年 11 月 4 日 福井



2019 年 11 月 4 日、福井駅前のアオッサにて、福井原告交流会が開催されました。参加者は、原告 8 名(付添人含む)、弁護団 7 名でした。

内容としては、弁護団から各種報告(現在の訴訟の状況、歯科シンポジウム、福井県の肝炎対策協議会、患者講義)がなされた後、患者同士の情報交換を行いました。そして、アオッサでの交流会後、付近の飲食店に移動し、昼食をとりながらの懇親会も行いました。こちらは希望者のみでしたが、計 12 名が参加されました。

原告交流会のメインは患者同士の情報共有やそれぞれの日常での悩みや疑問の解消なので、交流の時間や懇親会が一番充実していました。【弁護士 園山達紀】

【参加者原告の声】 福井市 60 代女性

今回は午前中に開催されましたが、参加しやすい時間帯でとても良かったと思います。せっかくの素晴らしい会なので、今後は嶺南の方など福井市内だと参加が難しい方への配慮も考えて、より多くの皆さんに参加して欲しいと思いました。

「石川原告交流会」開催

2019 年 11 月 23 日 石川

2019 年 11 月 23 日、石川県女性センターにて石川県原告交流会が開催されました。当日は、原告団 14 名、弁護団 4 名が参加しました。

前半では、管理栄養士の笹川真澄様をお招きし、食と健康をテーマとした講演をいただきました。講演では、参加者が自分の食生活の振り返りをして改善点を探したり、これからの人生のテーマや、人生を輝かせるための要素などについて、自分なりの考えを話し合ったりしながら、バランスの良い食生活の大切さを学びました。

後半は原告団の交流会を行いました。患者として経験してきた苦悩やお互いの治療状況を話し合ったりどのような保険に入っているかといった情報交換をしたりするなど、普段、人にはなかなか言えない聞けない話をし親睦を深めました。これからも、各県で原告団交流会を開催いたしますのでぜひご参加ください。



NO.9

我らの！弁護団員のご紹介

にしまさだよし

西山貞義 弁護士 富山中央法律事務所(富山県)

我らの弁護団員のご紹介をいたします。
弁護士の意外な一面を知ってより一層親しみをもていただければと思います。

北陸弁護団での役割は？…オレンジ通信編集チーム、広報班

好きな食べ物は？…no Ramen no Life 500 軒くらいラーメン店を巡っています。

趣味は？…仕事と強いていうならラーメン。つまらない人生だと自覚しています(笑)

今までで 1 番嬉しかったことは？…隠されていたウン千万円を発見・回収できたときなど弁護戦略が功を奏して「正義は勝つ」を実現できたときはとっても嬉しいです。色々あるのですが、詳しく言えないのがもどかしいです(笑)

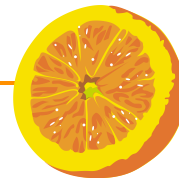
一目惚れをしたことは？…むしろ一目惚れしかしらないと思います(笑)

弁護士になろうと思った理由は？…弁護士に助けられ人生を変えてもらったから。実は理学部卒で分子生物学の研究者志望でした。

最後に一言…私を見かけたら、お勧めのラーメン屋をぜひ教えてください！



今後の主なスケジュール



【 裁判期日 】

金沢地裁

日 時：次回 2 月 18 日(火)午後 1 時半～
次々回 5 月 22 日(金)午後 1 時半～
場 所：金沢地方裁判所 202 号法廷

※裁判期日はどなたでも傍聴できます

※裁判期日後、報告集会や交流会を開催しております。お気軽にご参加ください。

富山地裁

日 時：次回 4 月 20 日(月)午後 1 時半～
次々回 7 月 13 日(月)午後 1 時半～
場 所：富山地方裁判所

※裁判期日はどなたでも傍聴できます

【 その他の主な予定 】

★北陸の予定

6 月 7 日(日)午後 1 時～(予定)
北陸原告団総会@金沢

★全国の予定

2 月 3 日(月) 15 時～ 肝炎フォーラム@東京
5 月 21 日(水)、22 日(木) 肝臓学会@大阪
6 月 14 日(土) 全国代議員総会@名古屋
8 月 22 日(土)、23 日(日) 原告団合宿

各県の肝炎対策行政に働きかけています！



肝炎患者として社会生活に困ったことはありませんか。医療費、入通院を繰り返しながらの仕事、家庭生活、偏見差別などなど肝炎患者が抱える困りごとは様々です。

私たちは、これまで継続的に政府や国会等に働きかけ、様々な支援制度を実現させてきました。北陸三県でも、患者団体として肝炎対策に関する要望書を県に提出したり県の担当者と面談するなどして積極的に働きかけを行っています。今年度は、【医療費助成申請のさらなる簡素化】、【肝炎医療コーディネーターの養成、活性化】、【妊婦健診、手術前検査の肝炎陽性者へのフォローアップ体制の確立】などを要望予定です。例年春ごろに各県の肝炎診療協議会等で協議されます。石川県・富山県では、原告団員が協議会の委員となっていますし、福井県でも毎年傍聴を行って、原告団員が委員となれるように努力しています。

私たち肝炎患者が利用しやすい制度の実現、また、より良い社会生活を送る為に、患者団体として、「患者の生の声」を各県へ直接届けたいと考えています。ぜひ、お気軽に患者交流会などでお話して頂けると幸いです。 【代表 川上ゆきえ】

■ B型肝炎訴訟の提訴者数・和解者数

(2020 (令和 2) 年 1 月 20 日現在)

【全国】 提訴者数 30061 人

(被害者数 27405 人)

和解者数 24799 人

(被害者数 22333 人)

【北陸】 提訴者数 780 人

(被害者数 698 人)

和解者数 572 人

(被害者数 501 人)



編集後記



結婚 20 年。両親への感謝を込めて、夫婦で門松作り 15 年。これからの令和の時代も感謝を伝えたいです。【川上】

年齢を重ねるにつれて体のメンテナンスが最重要課題になってきました。体調に気をつけながらもアクティブに過ごしていこうと思います。【藤田】

北陸原告団・弁護団が発行・配布している「肝炎患者支援ハンドブック」。今年の春に改訂版を発行すべく準備を進めています。乞うご期待。【西山】

新年早々インフルエンザにかかり、私を起点に家族全員に感染しました。妻から戦犯と見られてます。【村上】

昨年は子連れでの旅行が多かった一年でした。行く先々で子どもに温かい対応をしていただき、社会に育てられている感を強くしました。今年も、よい出会いに恵まれる一年になりますように。【中澤】